

後、喀什噶爾に勃興せし回人布格<sup>ブ</sup>格拉<sup>ゲ</sup>、葱嶺を越えてサマルカンド<sup>ラ</sup>地方を征服し、其人民を率ゐて凱旋し、次で彼等の大部を歸らしめしが、其の際一部は天山南路各地に残りて土着したり。『トンガン』(回語遺種の義)の名蓋し此に起因す。其の後同種族の成吉思汗に従軍して、支那に侵入せしもの、内地各地に残留せしものも少からず此等の回民は、遂に清朝に歸服し、其の言語、服裝等、悉く清人同様に改めしも、獨り宗教のみ改宗せざりき。以來此の種族は、次第に繁殖し來りて、支那本部の各地殊に甘肅諸州を始め、天山南北路の各地に擴がり、現に清廷の兵役に服する壯丁多し。

宗旨軍の  
跋扈

東干即ち漢回は、常に清人と和せず。蓋し宗教人種の異なるに因る。其の反目疾視は、千八百六十二年(同治元年)會、兩民の間に一小事變ありしに勃發して、東干遂に叛旗を掲げ、宗旨軍と稱し、清官吏を屠り城邑を破る。是に於て四方の東干一時に蜂起し、其の壯丁の戍兵と爲る者、皆變じて之に應じ、南北路諸城の纏頭回亦彼に倣ひて、新疆全部大修羅場と化し、南北兩路悉く東干の手に落ち一時清軍の形勢危ふかりしが、千八百六十八年(同治七年)左宗棠の進軍に依り、清軍大に振ひ、千八百七十七年(光緒